

機器分析学実習

(Instrumental Analysis, Lab.)

担当教員名: 准教授 北出 達也、助教 武上 茂彦

【概要】

薬学の分野における研究あるいは計測施設では種々の分析機器が使用されているが、中でも分離定量手段としてのガスクロマトグラフや高速液体クロマトグラフ、簡便な定量手段としての紫外・可視分光光度計、構造解析や同定手段としてのフーリエ変換形赤外分光光度計は一般的に汎用されている。本実習では、これらの分析機器を実際に取り扱い試料を分析する事により、これらの分析機器の操作法を習得し、原理や装置の構成についての理解を深める。さらに、得られたデータを解析する方法を習得する。

【授業の一般目標】

ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、紫外・可視分光光度計、フーリエ変換形赤外分光光度計の測定操作方法やデータ解析法を習得し、分析機器の取り扱いに慣れ親しむ。

【成績評価方法・基準】出席、実習態度およびレポートや実習試験を総合して評価する。

【備考】(担当教員に対する質問等の連絡方法)

薬品分析学教室の研究室(8号館3階)まで来て下さい。